

対象プログラム

記述する単位

名称	地域日本語対話教室	事業・システム全体
	日本語教室in KU	
実施期間	年 月～	○ 教室
	年 月	その他

利用の目的

<input type="checkbox"/>	プログラムの全体像を把握する。	<input type="radio"/>	プログラムの現状を記録する。
<input type="checkbox"/>	問題を特定する。	<input type="checkbox"/>	過去のプログラムを振り返る。
<input checked="" type="radio"/>	プログラムについて説明する。	<input type="checkbox"/>	新しいプログラムを作る
<input type="checkbox"/>	その他()	<input type="checkbox"/>	

記入後に見せたい人

<input type="checkbox"/>	内部者(具体的に:)
<input checked="" type="radio"/>	外部者(具体的に: 対話活動地域日本語教育をイメージしてもらう)
<input type="checkbox"/>	その他(具体的に:)
<input type="checkbox"/>	(自分のみ)

社会的背景
(促進要素・制約・条件など)

(促進要素や制約条件となりうるような、どのような社会的環境・ニーズがありますか。)

- 外国人定住者(地域での生活者)の増加に伴う、地域での多文化共生の必要性。
- わが県のような散在県は、外国人問題が潜在化しており、多文化共生の必要性自体認識されていない所が多いので、その必要性の啓発から始めねばならない。
* 散在県: 外国人定住者が定住しておらず、県の各地域に散在している。県人口比1%程度の所が多い

使命

(あなたの組織・言語教育プログラムの使命(ミッション)は何ですか。)

・外国人定住者と日本人市民が、日本語を媒介として「対話活動」をすることにより、「異なり」を「豊かな資源」とし、「新しい多文化共生地域」の萌芽となる。

目標

(言語教育活動の目標は何ですか。)

- 外国人の対話力、生活日本語の獲得・向上
- 日本人の対話力、多文化コミュニケーション力の獲得・向上
- 外国人がエンパワーされ、地域社会に参加できる力をつける

実績

(これまでにどのような実績がありますか。)

- ・2008年より継続して実施。
- ・現在(2016)まで、外国人参加者68名、日本人参加者53名。
- ・多文化コミュニケーション力を生かして教室外でも外国人支援の役割をする人が増えた(実例: 務めている企業や自治会で。)
- ・支援者に教室内外で支援を受けて、資格試験(介護福祉士)に合格4名。その他の外国人参加者も、転職や就業上の悩みを対話活動で解決することが多い(ミーティングの発言から)

対象プログラム

Table with 2 columns: 名称, 地域日本語対話教室 / 日本語教室in KU

【構成要素】

ヒト(関係者)

◎教育・支援スタッフ

①:日本語コーディネーター(有償)(対話活動の企画・実施。質の保持。ボランティアリーダーの育成。新人ボランティアの養成)
②:支援者(日本人・外国人):対話活動を「わかり合う日本語≒やさしい日本語」で行い、外国人・日本人が共に学ぶ場作り。日本社会の既有知識を提供する等。日本社会に問題提起する、母国の既有知識を提供する等。

活動の指針となる考え・方法:どのようなことをスタッフで共有していますか。
・日本語コーディネーターは(①)は、支援者(②)とボランティアリーダー(③)と使命・目標を共有。ただし日本人および外国人参加者(⑤)とはボランティア親や支援親等の違いで、到達目標などズレている場合がある。

◎運営スタッフ

③ボランティアリーダー:教室運営(会場確保。会計。広報。他機関との連携など)
④県の国際センターの担当者1名。(ただし、他業務との兼務):
コーディネーター派遣制度実施、ボランティア養成講座の開催

運営スタッフのニーズ:プログラムや対象者に対してどのようなことを期待していますか。
・ボランティアリーダー(③)のニーズ:
1)県など行政機関が、予算や人材面でもっと協力してほしい。

◎対象者

⑤日本人参加者:日本人市民なら原則誰でも受け入れている。【会社員、主婦、定年者など】ただし地域日本語教育の基礎素養「外国人状況、ボランティアとは、支援とは、対話とは」等を、ボランティア養成講座で学んでいることが望ましい。最低OJTでは学んでもらう。
⑥外国人参加者:地域で生活する外国人で、ごく簡単な日常会話ができる人なら誰でも(配偶者、日系人労働者、技能研修生など。国はアジアを中心にさまざま。)

対象者のニーズ:プログラムや日本語学習等に対してどのようなニーズがありますか。
⑤日本人参加者:
・自分もいろいろなことを知りたい。困っている人の役に立ちたい。
日本語を教えたい人もいる。

◎その他:上記以外でプログラムの運営に際し考慮すべき立場の関係者・関係組織

(例えば、学校経営者、組織長、行政の担当者、予算配分者など)

【順不同】⑨教室がある自治体の国際交流協会
⑩教室がある自治体の該当部署(市の国際課等)
⑪社会福祉協議会:外国人状況を福祉の観点から捉えている

各関係者のニーズ:プログラムに対してどのようなニーズがありますか。
⑨、⑩:外国人対策や多文化共生プランを実施している関係から、地域日本語教室には、活発に活動してほしい。

情報(知識・経験なども含む)の共有

Table with 3 columns: 共有範囲, 共有方法, and content for various categories like 対象者に関する情報, プログラム実施報告作成に関する情報, etc.

モノ(施設・設備)

対象者用:どのような施設(ラウンジ、LL、図書館、自習室など)設備(コンピュータ、給湯、教科書/教材、など)がありますか。

コーディネーター・支援者用:どのような施設(教育・支援スタッフ用控室、教材用図書室、など)設備(コンピュータ、給湯、教科書/教材、など)がありますか。

- ・公民館の部屋(申し込みをして、活動の時だけ借りの)
・わずかな活動集、文具、著書など

- ・公民館の部屋(申し込みをして、活動の時だけ借りの)
・わずかな活動集、文具、著書など
・日本語コーディネーター所属の学校(ミーティングスペース、教材書庫)

カネ(予算・資金)

十分な予算・資金が確保されていますか。(十分でない場合は、何のための予算が必要ですか。)

全く足りていない。

- 1) コーディネーター派遣費用(本来は専門家がコーディネーターとして常駐すべきだが、現段階では、月1回程度の派遣のみ。ボランティアリーダーがコーディネーターと連絡してその役割を担っている。)

外部の関連団体・プログラム

関連・関係:どのような団体やプログラムなどがありますか。それぞれどのように関連していますか。

- ⑫学校:外国人参加者の子弟が通っている所と子弟のことで。地域の小・中・高校、大学からは「異文化理解」の出張授業など
⑬企業:外国人参加者が勤務している所へは、情報交換等。
⑭地域の自治会:外国人参加者と自治会の橋渡しをする等

対象プログラム

名称	地域日本語対話教室 日本語教室in KU
----	-------------------------

【基本計画】

【実施活動】

カテゴリー (教室・コース・クラス・活動・その他)	: <u>どのような活動の単位となるカテゴリーがありますか。</u> 1) 対話活動クラス: 外国人定住者と日本人市民の協働で対話活動をする場 2) 入門クラス: 原則、地域日本語教育専門家が学校型で実施する。支援者にTAを依頼することもある。 3) 保育: 対話活動クラス参加の親のために子弟保育が目的だが、子どもや親に就学前教育もする。
対象者特性	: <u>各カテゴリーは、対象者のどんな特性(レベル、ニーズなど)を想定していますか。</u> 1) 対話活動: 入門レベルの日本語力がある～上限なし(含む・超級) 2) 入門: ゼロ初級 3) 保育
規模(人数・教室数)	: <u>各カテゴリーで想定する対象参加者は何人ぐらいですか。想定する教室数はどのくらいですか。</u> 1) 対話活動: 日本人参加者1に外国人参加者1で、15ペア位が上限。 2) 入門: 十数名が上限 3) 保育: 2~3人
期間(学期など)	: <u>各カテゴリーはどのくらいの期間実施されますか。</u> 1年を1タームとして通年で実施。益暮れの期間は、日本人の習慣にのって休む。
①単位時間 ②頻度	: <u>各カテゴリーでは、①どのくらい長さの授業(活動)を、②どのくらいの頻度で行なっていますか。</u> ① 1回90分(前に15分、後ろに45分程度ミーティングあり。)日本語コーディネーターと日本人参加者が中心) ② 月2~3回
内容	: <u>各カテゴリーでは、どのような内容で活動を行いますか。</u> 1) 対話活動クラス ・方法: 支援者と外国人の対話を基本とする。外国人を含む支援者が「やさしい日本語」で対話をつなぎ、話を広げたり、深めたりする。識字、体験活動もある。 ・内容・わらい、話題は、生活・労働・教育・防災など実際の生活、社会が抱える課題など、取り上げた話題ごとにねらいを決める。 2) 保育: 工作や体を使った遊び、読書など。入園、入学に備えた情報提供。親への育児支援、通学指導、進路指導。
実施場所	: <u>各カテゴリーは、どこで実施されますか。</u> 公民館などの公共施設
その他(特記事項)	: <u>各カテゴリーについて、上記の他に何か特記する事項がありますか。</u> 1) 対話活動の他に、実際に社会に参加する疑似体験活動をする。外国人と共に地域でのボランティア活動に参加したりする。 2) 互いのクラスには有機的なつながりがある。入門クラスを卒業し活動クラスにあがる。活動クラスの先輩外国人が入門クラスに通訳として入る、保育に来ている子どもたちの問題を対話活動クラスで話し合うなど、各クラスが単独で存在しているのではなく、互いに行き来があり、課題の共有がある。

フィードバック・見直

: 評価・振り返りの結果、どのような改善を行いますか。

 結果を踏まえて、考えられる改善策を振り返りのミーティング等で皆に提案。次年度の活動計画や新人養成(ボランティア養成講座内容など)の参考にする。

計画・準備

: 【基本計画】を実施する前に、どのような準備・計画を行っていますか。

 ・年度末に、「今必要な事・困っている事」などのテーマで対話活動をして、学習者のニーズを中心に、1年のテーマ設定をする。
 ・毎回の活動の1か月ほど前に、教室の現在の状態(メンバーシップや教室の成熟度など)を考慮して、テーマの再考をする。(ボランティアリーダーとコーディネーター中心に。)

評価・振り返り

: どのような評価・振り返りのためにどのような活動を行っていますか。

 ・毎活動の終了後に事後ミーティングを行う。
 ・不定期アンケート(外国人・日本人に)
 ・2~3週間に1度、コーディネーターとボランティアリーダーがミーティングを行う。
 ・半年に1度、ボランティア(支援者)ミーティング
 ・3か月に1度、アドバイジング報告書を県国際交流センターへ提出

実施

【基本計画】の実施

モニター

: 【基本計画】が計画通りに行われているかを、どのようにチェックしていますか。

 ・シラバス(基本計画)通り行われていることを、余り重視はせず、その時の教室の成熟度や出来た問題への対応を重視している。その意味では、後行シラバスの意である。活動が、現在の学習者や教室の状況に有益かを「評価・振り返り」で確認する。